

ラパス移住地概要 (イタプア県)



ラパス移住地は、首都アスンシオンから約370 km、エンカルナシオン市から約50 km地点に位置しています。現在143世帯、人口679名の日系移住者が住んでいます(2015年)。

ラパス移住地の総面積は約19,800haで、基幹作物は大豆、冬作には小麦が栽培されており、近年は畜産事業にも取り組んでいます。



ラパス日本人会

ラパスでは日系移住者及びその子弟により日本人会が組織されています。ラパス日本人会では、日本人会事務所に加え、日本語学校運営、薬局の運営、ラパス・イタプア国際文化会館の運営及び文化活動、高齢者福祉支援活動等を行っています。

日本人会傘下には、長寿会、婦人部、青年部の3つの団体が存在します。

なお、ラパス・イタプア国際文化会館については、2002年に日本万国博覧会記念協会の補助金により建設されました。



ラパス日本人会



ラパス・イタプア県国際文化会館

連絡先：社団法人 ラ・パス日本人会

住所： Distrito de La Paz, Itapúa

電話： (0763)20009 E-mail: asolapaz@yahoo.co.jp

ラパス日本語学校

現在、日本語学校の生徒数は 82 名、教員数は 10 名です。2002 年に日本語学校付属幼稚園を併設し、外国語としての日本語教育を実施し、勤勉で人間性豊かな児童生徒の育成を図るとともに、社会の一員としての自覚を深め、次代を担う子供を育成することを目標としています。

日本語学校の主な年間行事として、健康診断、校内スピーチ大会、子供の日、運動会、敬老会、デーサービスやスポーツ交流等が年間を通じて行われています。

【学校の写真】



運動会



子どもの日

ラパス農業協同組合

ラパス移住地の日系人の主な事業は大型機械化農業による大豆及び小麦栽培です。2003 年には小麦製粉工場が完成し、2010 年には家畜用飼料工場の操業も開始され、畜産業も伸びはじめています。

ラパス農業協同組合は日系農協の中で最も組合員数の多く（組合員数：155 名）、畑作物生産規模はピラポ、イグアスに続いて 3 番目です。



製粉工場



飼料工場

日系人が経営するレストラン、ホテル、サービス等

日系人が経営するスーパーマーケットがあり、日本食品（お米、日本のインスタント食品、日系人の方々の手作りの漬物類、現地の醤油等の調味料、お酒等）や外国から取り寄せた魚介類等も販売されています（パラグアイは内陸国であるため、海の魚貝類は全てブラジルやチリから輸入されたものです）。経営者のご家族が店に居られ、皆さん日本語が堪能であることから、日本語で買い物ができます。

《ホテル・ラパス》 電話番号：(0763) 20016



ラパス市役所



幹線道路沿いのガソリンスタンド、ホームセンター



隣町へ続く幹線道路



スーパーマーケット等が並ぶ中心街の道路



日系人の経営するスーパーマーケット



日系の薬局



市役所や国際文化会館が立ち並ぶ道路

フジ地区・サンタローサ地区

現在のラパス移住地（当時：フラム移住地）は、3つの地区（フジ、ラパス、サンタローサ）から構成されています。1955年からフジに、1956年からラパスに、1957年からサンタローサにそれぞれ入植がはじまり、各地区に自治組織が設立されました。その当時に建設された日本人会館が、現在も各地区の日本人・日系人により使用されています。



フジ地区日本人会館



フジ地区入植記念碑



サンタローサ公民館



サンタローサ公民館入口



サンタローサ公民館前に設置されている「顕徳碑」
(高知県 溝淵 増巳知事)

行き方

国道1号線：アスンシオンバスターミナルからエンカルナシオン市行の長距離バスで約5.5時間。エンカルナシオン市のバスターミナルからラパス行きのバスに乗り換え、約1時間程度でラパス市に到着します。もう一つの通路として、イタプア県の Carmen del Parana 市から Graneros del Sur 経路でラパスに行くこともできます。

関連リンク

ラパス移住地の歴史等のより詳しい情報は、以下のパラグアイ日本人会連合会のHPをご覧ください。

<http://rengoukai.org.py/ja/la-sociedad-nikkei/idonde-estamos/colonia-la-paz>

パラグアイ日本人会連合会：ラパス日本人会を含むパラグアイ国内の9日本人会、文化協会と1日系団体で構成された法人（1970年9月8日創立）